

小林淳一君のこと

中山正光（11組）

小林淳一君(11組)に高校卒業後初めて出会ったのは私が45歳の時、日立製作所(以下日立)本社だ。

筆者(中山)が日立の甲府・武蔵・香港そして高崎工場勤務の後、日立総研に転勤した時、武蔵工場で硬式テニスのダブルspartnerが研究開発本部副本部長に就任されたので挨拶に行った際のこと。何とあの小林君が



そこにいたのである。小林君は東北大学大学院機械工学専攻の博士課程を修了して、昭和51(1976)年、日立に入社していたのだ。高校卒業以来の再会で全くの奇遇であった。

小林君は58歳の時、秋田県立大学の教授へと転身したが、筆者はその頃、日立の子会社へ転属していて秋田県に仕事で行くことが多く、その度に彼のいる大学を訪れた。

2022年末に、小林君が秋田県立大学を退任すると聞き、同級の岡田修君、清水公男君と三人で秋田まで行って「ご苦労さん会」を行なった。その時、小林君が翌年4月から、公立大学法人長野大学の学長に就任することは知っていたが、敢えてその話題に触れなかった。その後の小林君の長野大学での活躍は誰もの知るところなので割愛したい。

今般、65期HPにリンクされた大学の「学長コラム」を拝見して、大学や地域社会に自然と溶け込んでいるのが良く分かった。特に、小林君の文章は学生だけでなく誰が読んでも興味深い逸話が盛り込まれていて吸い込まれる。これからも「学長コラム」を楽しみにしたい。

地元の羽田義久君(11組)からは「小林君による大学ガバナンス改革の推進は見事だ。地域社会に密着した活動が多く、学生達へも彼の指導が行き渡っている。最近、入学試験場を増やしたり、日立や秋田県立大学の経験を生かして国際感覚を伸ばす教育や現在の文系学部を理工系学部を新設しようとする進んでいる。長野大学の偏差値も鰻登りと聞く」というコメントが寄せられた。

岡田君からは次のようなメールが届いた。

「秋田県立大学もとても立派な大学だったが、長野大学もいつの間にか立派な大学になっている。マンモス大学ではないから、学長と学生の距離は近いようだ。

一人の学生が学長室で蕎麦を打ちたいと言ってきて、打ってもらって賞味したというコラムはとてもいい話だ。大学は毎年元気な若者たちが集まってくることに最大の特徴がある稀有な場だと思う。その場をより良くするために奮闘している様子が伝わってくる。小林学長に、頑張りすぎて身体を壊さないようにと祈りつつエールを送りたい」。

来年は喜寿の同期祝賀会が上田で開催されると聞いているが、そこでの再会が楽しみだ。同時に同期会の後、小林君と岡田君が幹事で行われる11組クラス会もあわせて、宜しくお願ひしたい。(2024年12月14日記)

以上